

特別展 山口 薫

回 会期 昭和58年4月12日(火)～5月29日(日)

休館日 4/18・25・30 5/2・4・6・8・16・23

回 会場 松濤美術館

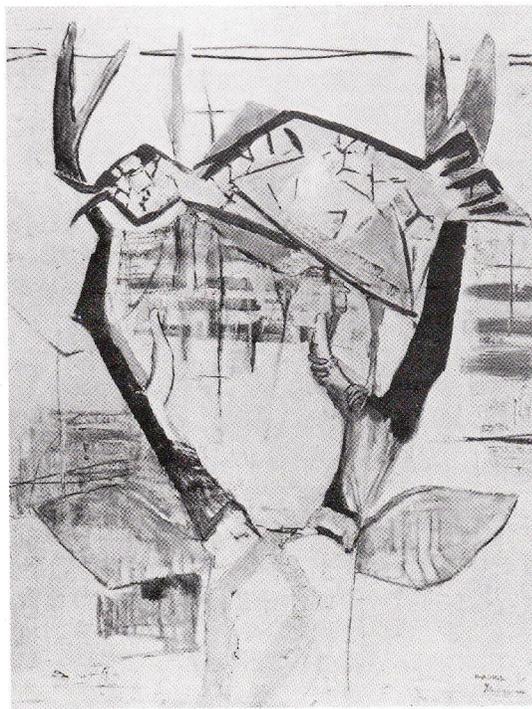
第1会場(地下1階) 油彩

第2会場(2階) 油彩

第3会場(2階) 版画・水彩・デッサン



幻想 ロダンの夢 昭和26年(1951)



雪山好日 昭和30年(1955)

この展覧は、昭和の洋画壇において鋭敏な感性により独自の叙情的世界を築いた山口薫の作品を陳列するものです。

山口薫は群馬の榛名山麓の旧家に生まれました。土に親しみ自然に育まれた彼は、それらの田園風景をこよなく愛しました。また、生き生きとした生活感情を重んじた姿勢を貫き、田圃、沼、鳥、牛、馬、少女といった身近なものから触発を受けた題材を描きました。彼の作品に感じられる詩情、素朴さは、その郷里の風土や生活から生まれたものです。

東京美術学校卒業後、三年間の滞欧で西欧の芸術に触れた山口薫は、帰国後の昭和9年(1934)『新時代展』、つづいて12年(1937)『自由美術家協会』を、友人の村井正誠、矢橋六郎、長谷川三郎らとともに結成し、従来の概念にとらわれることなく近代的な造形理念に基づき、革新的な造形を追求しました。戦後、『モダンアート協会』の創成にも参加、その主要メンバーとして活躍し、いまだ混沌としていた日本の抽象芸術の先駆者の一人として洋画界に新風を吹き込みました。

その作品は、具象から単純化・抽象化へとすすみ、温かい潤いのある色彩と堅牢でしかも構成の確かな線や形態は、山口薫の生涯にわたる画業の骨子となったものであります。

また、田園風景に培われた素朴な詩情は山口薫の追求した近代的な造形表現とのみごとな融合をみせています。

このたびは、美校在学中の昭和3年(1928)より歿年の昭和43年(1968)までの作品、油彩画約70点、版画、水彩、デッサン等約25点を陳列します。

この展覧をとおして、山口薫の初期から晩年にいたる創作活動のほぼ全貌を見わたすことができ、その芸術のきびしい造形と叙情性ゆたかな世界を感じられることと思います。

講演会 (B2 ホール)

○ 4月23日(土)午後2時より

「日本の洋画家としての山口薫」

東京都美術館事業課長 朝日 晃

○ 5月14日(土)午後2時より

「人間 山口薫」

多摩美術大学教授 勝田 寛一

主な陳列作品

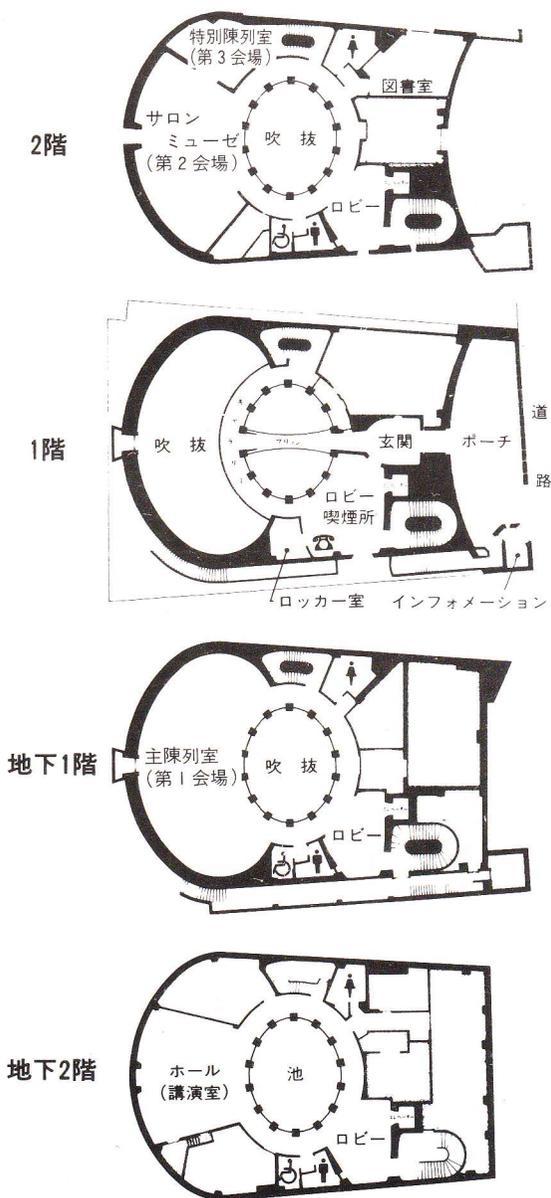
緑衣横臥婦人像	昭和6年(1931)	群馬県立近代美術館蔵
潮騒	昭和12年(1937)	
クリスタル壺	昭和23年(1948)	群馬県立近代美術館蔵
春の鳥	昭和27年(1952)	東京都美術館蔵
子供のための楽曲「田園」	昭和27年(1952)	東京国立近代美術館蔵
ボタン雪と騎手	昭和28年(1953)	愛知県文化会館蔵
季節の哀歎「田圃と鳥」	昭和28年(1953)	京都国立近代美術館蔵
雪山好日	昭和30年(1955)	
千手「黒夫人」像	昭和32年(1957)	
クロと鳥	昭和34年(1959)	
あや子あやとり	昭和34年(1959)	
草原を飛ぶ翼	昭和37年(1962)	
竹の園生	昭和38年(1963)	東京芸術大学蔵
月と土産子	昭和42年(1967)	群馬県立近代美術館蔵
太陽の中の鎧や馬	昭和43年(1968)	

※会期中作品の陳列替えを行います

前期：4月12日～5月5日

後期：5月7日～5月29日

松濤美術館・平面図

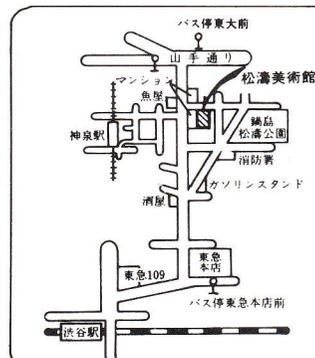


《ご案内》

- 開館時間 午前9時～午後5時 (入館は4時30分まで)
- 休館日 毎週月曜日 (第2週のみ日曜日)
祝日の翌日、年末年始 (12月29日～1月3日)

○入館料

	個人	団体(20人以上)
一般	200円	160円
小・中学生	100円	80円



渋谷区立松濤美術館 〒150 東京都渋谷区松濤二丁目14番14号 電話 (03)465-9421